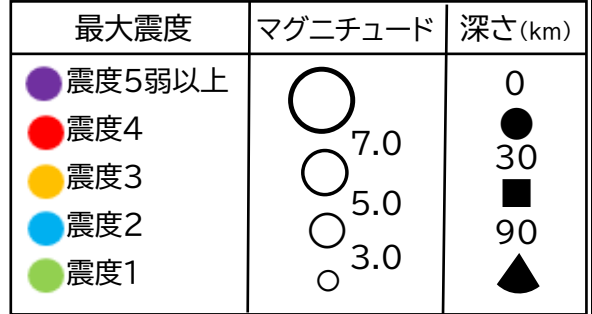
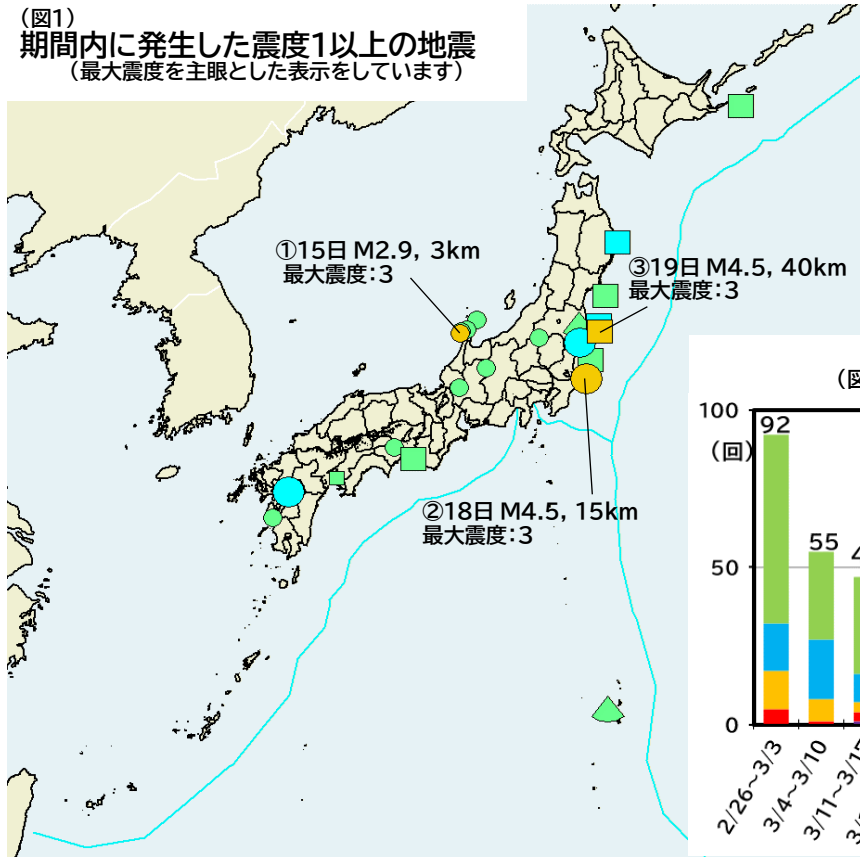


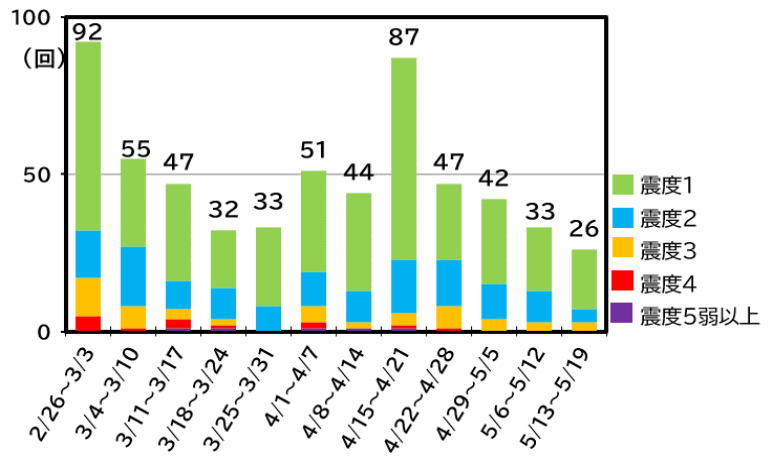
この期間の最大震度は3

本資料は上記期間に国内で発生した震度1以上の地震についてまとめたもの (出典: 気象庁震度データベース/地震情報)

(図1) 期間内に発生した震度1以上の地震 (最大震度を主眼とした表示をしています)



(図2) 1週間毎の最大震度別地震発生回数



主な地震の発生状況 (図1, 図2参照)

- この期間、震度1以上の地震が26回発生。最大震度は3。■
- ①5月15日02時49分に能登半島沖で発生した地震(M2.9、深さ3km)により、石川県志賀町で震度3を観測。
- ②5月18日09時55分に茨城県沖で発生した地震(M4.5、深さ15km)により、茨城県鹿嶋市・潮来市・行方市、千葉県香取市・多古町で震度3を観測したほか、関東地方で震度2~1を観測。
- ③5月19日00時46分に福島県沖で発生した地震(M4.5、深さ40km:速報値)により、福島県檜葉町・大熊町で震度3を観測したほか、岩手県から千葉県にかけて震度2~1を観測。

トピックス

- 2つのマグニチュード ■
- ・地震の大きさを表す「物差し」としてマグニチュード(通常Mと表す)がありますが、マグニチュードは長さや重さのように統一された基準がないため、1つの「物差し」で測っているのではなく複数の「物差し」で測っています。このため、1つの地震でも複数の数値(マグニチュード)が出てくる場合があります。
- ・いくつかの「物差し」がありますが、大きく「気象庁マグニチュード(M_J)」と「モーメントマグニチュード(M_W)」の2つが代表的な「物差し」です。
- ・2つのマグニチュードには、それぞれ下表のような長所と短所があり、気象庁は気象庁マグニチュード(M_J)と、モーメントマグニチュード(M_W)それぞれの長所を活かして発表する情報等に使用しています(気象庁資料から抜粋)。
- ・複数の「物差し」があるため、M_Jが6.8、M_Wが7.0と求まった地震は、使った「物差し」が違うため、どちらが大きい地震なのかは単純に比較できない場合があることになります。
- ・更にややこしいことに、欧米では、「マグニチュード」ではなく「リヒター・スケール」という用語がよく使われており、外国で発生した地震について新聞などで見かけます。

| | 気象庁マグニチュード(M _J) | モーメントマグニチュード(M _W) |
|------|---|---|
| 長所 | ・地震発生直後に迅速に求めることができる。 ・地震の規模を精度よく反映しており、約100年間にわたって一貫した方法で決定されている。 | ・断層の面積と断層すべり量の積に比例する量であり、物理的な意味が明確。 ・巨大な地震の規模を求めることが可能。 |
| 短所 | ・経験式で物理的な意味が曖昧。 ・巨大な地震(M8を超えるものなど)の規模は正しく決められない。 | ・地震波形全体を詳細に分析する必要があるため、地震発生直後に迅速に計算することが困難。 ・規模の小さい地震で精度よく計算することが困難。 |
| 使用情報 | 津波警報の第1報や、地震・津波に関する情報。 | ・津波警報の第1報発表後の津波警報の更新時等。 ・巨大な地震で、M _J では地震の規模を表すことができない場合。 |